

## 第7回優秀論文賞選考理由

選考委員会委員長・川井伸一

平野悠一郎会員の論文は、現代中国の指導者層の森林認識のあり方とその背景を究明するというユニークなテーマを扱ったものである。論文は、現代中国の指導者層は「緑化祖国」という歴史的に一貫した共通した認識があることを指摘する。そして、森林の機能を物質提供機能、環境保全的機能、精神充足機能の三つに整理し、各機能についての指導者層の認識を歴史的に分析したうえで、その森林認識は、シャピーロの言うような特定個人のイデオロギーに集約されるものではないこと、また多様な森林機能を創り出すものであったという点でソ連・東欧における商品提供機能に特化した画一化とは異なるものであることを明らかにしている。さらに論文は、その森林認識には中国の基層社会の人々とは異なる「統治者」として森林を見る眼があること、すなわち、自らの政治的「正当性の確保」の観点から、指導者層によって森林の諸機能が価値づけられ、そこにさまざまな政治思想が利用されてきたことを主張する。論文の最大の特長は、森林を見る政治指導者層の「眼」のありようというユニークな視点を設定し、それに深い分析を加え、指導者層から見た森林の役割構造を実証的に明らかにしたことであろう。それは政治と森林環境という二つの異なる領域を見事に結びつけ、中国政治研究における新しい研究領域を切り開いた優れた成功例を示したといえる。現在世界的に注目されている環境問題と政治との関係を考察していくうえでも、本研究は地域を超えた発展可能性と比較可能性を示している。今後は、現代中国における指導者層の森林認識を踏まえて、森林破壊の問題等も含めて森林政策の政治過程全体の実証的究明に引き続き研鑽され、新たな成果を出されることを期待したい。なお、『アジア研究』に掲載された今回の選考対象論文には優れた力作が多く、第一位と第二位の論文の評価は僅差であったことを付記しておく。

### 受賞の言葉

#### 森林総合研究所 平野 悠一郎

このたびは、素晴らしいアジア研究者の方々のひしめくアジア政経学会にて、このような望外の栄誉を頂けることとなり、大変、光栄に存じます。ご評価頂きました拙稿に、貴重なお時間を割いて下さった査読者・編集担当の先生方、そして選考委員の先生方、改めまして厚く御礼申し上げます。

私は、森林や自然に対して、人間がどういった「価値」や「立場」から、働きかけを行ってきたのかに興味関心を抱いて参りました。人間は、実に多様な価値や便益を、森林・水といった自然の事物に対して付与しています。しかし、その価値は、実のところ、個々の人間の立場に応じて異なるものでもある。そして、今日、世界的にクローズアップされている「環境問題」は、それらの異なる立場や価値を反映した、自然との複雑な関わりの結果として理解されるべきである。これが、拙稿「現代中国における指導者層の森林認識」の執筆にあたっての私の基本的な問題意識でした。現代中国の毛沢東、周恩来、鄧小平といった指導者達は、全土の森林荒廃に直面して、住民を動員した森林造成・保護による「祖国の緑化」を唱え、森林の多様な機能に配慮した「森林環境政策」の実施を目指してきました。けれども、それは、基層社会で森林と直に向き合う人々の価値や便益に配慮したのではなく、むしろ、彼ら自身の正当性や政治的立場の維持という価値・便益を保障するからこそ、重視されるという性質のものでした。この「統治者(立場)としての森林を見る眼(価値・便益)」の一元的反映という構図こそ、現代中国を通じた緑化への試みが、満足な成果を挙げてこなかった根本的な要因ではないかと感じています。

一方で、現代中国の指導者層の森林の「機能」に対する理解は、実に正確かつ詳細なものでした。実は孫文の時代から、既に中央の指導者たちは「歴史的な森林破壊を経験した中国において、健全な社会建設を行う上では、森林の維持・拡大が不可欠である」ということを一貫して言い続けています。周恩来、董必武、譚震林などに至っては、林学者としても十分通用するほどの見識を持ち合わせていました。その見識の表れとして、建国当初の林業部には、ドイツ・日本等に留学し、育成型林業や水土保持方面の知識・技術を習得した人材が多く登用されています。

このように、今日、半ば「錦の御旗」化している環境保護への取り組みが、「政権の正当性の維持」という価値の下に収まりつつある傾向を懸念すると同時に、早期から森林の諸機能に対する正確な知識を有していた指導者層に、改めて驚嘆させられる。こうした「アンビバレントな感情」を、拙稿の執筆中を通じて抱かされることになりました。現時点で、この感情に対して、学問的な見地からどんな「答え」を与えていくか、未だ暗中模索の状態です。但し、この賞を頂きましたことで、安易に「環境保護」を絶対視せず、その背後にある人間の立場や価値の違いを浮き彫りにした上で、問題の解決を図っていく研究が、今日、やはり重要なのだとの気持ちを新たに致しました。今後とも、学会員の皆様のご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。